

要 望 書

令和4年7月 日

長崎県国境離島市町議会連絡協議会

令和4年7月〇〇日

長崎県知事

大石賢吾様

長崎県国境離島市町議会連絡協議会

会長 作元義文

令和4年度県政に対する要望

国境離島の振興につきましては、かねてより格別のご配慮を賜り感謝申し上げます。

本協議会は、有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法（平成28年法律第33号。以下「有人国境離島法」という。）第2条第2項に規定する特定有人国境離島地域（以下「国境離島地域」という。）を有する長崎県内7市町の議会の議長及び有人国境離島法を所管する常任委員会又は特別委員会の代表をもって組織し、国境離島地域に係る地域社会の維持に関し必要な具体的施策を強力に推進し、もって関係地域の振興発展を図ることを目的としています。

有人国境離島法は、平成29年4月から施行され、国境離島地域においては、追い風が吹いているところではありますが、国境離島における更なる有人国境離島法の活用により、交流人口の増加等を図り観光産業の振興を図るため、本協議会で協議を重ねているところであり、要望を取りまとめてまいりましたので、次の諸事項につきまして格別のご配慮を賜りますようお願いいたします。

1. 有人国境離島法の確実な延長と支援事業の拡充について

国境離島住民の悲願であった「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」が平成29年4月から施行され、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金が創設されました。

特に、航路・航空路運賃低廉化については、ジェットフォイル運賃、航路運賃及び航空路運賃が約3割引き下げられたことにより、本土への往来の利便性が向上し、多くの島民がその恩恵を享受し、大変感謝しているところであります。

一方で、航路・航空路運賃低廉化の対象者が特定有人国境離島地域に居住する者及び一部の準住民に限定されていることから、地元出身者の帰省をはじめ、ビジネス客や観光客等にはその恩恵が及ばず、交流人口の拡大につながっていない状況であります。

来島される全ての人を運賃低廉化の対象に拡大することによって交流人口を増やし、観光産業の振興と定住・移住に繋げ、離島地域の活性化に結び付けてまいりたいと考えております。

また、特定有人国境離島地域が将来にわたり安心して暮らし続けていくことができる地域社会をつくっていくためには、経

済交流や観光振興を通じての交流人口の拡大、定住促進を継続的に行っていくことが必要であります。そのため、航路・航空路運賃低廉化の対象拡大を含めた、更なる支援事業の拡充と同法の設立趣旨を鑑み、恒久法化も視野に入れて確実に延長されるよう、長崎県からも国への働きかけを強く要望します。

2. 離島海上高速交通体系の維持について

離島航路は、人・物の物流手段として市民生活及び産業経済活動に欠くことのできない重要な役割を果たしており、特に高速船ジェットフォイルは、荒天においても高い就航率と速く、安全で快適な乗り心地が利用者に支持され、離島航路に必要不可欠な存在となっています。さらに、市民生活の足としてだけでなく、本土の医療機関への迅速な患者搬送、また、観光促進を図る上での海上交通手段として深く浸透しております。

しかしながら、現在、長崎県内に就航している4隻のジェットフォイルは、いずれも建造から30年以上が経過しており、船体の老朽化が進む中で、莫大な費用のかかる代替船建造計画は一向に進んでおらず、今後の高速船運航の存続を大変危惧しております。

離島の将来を左右する高速船ジェットフォイルの更新について、国境離島新法の目的に沿った国の施策として、新たな補助制度創設等の支援策を積極的に推進され、離島航路の海上高速交通体系が現状どおり維持されますよう、新船建造に対する国、県の財政的支援を強く要望いたします。

長崎県国境離島市町議会連絡協議会

市町名	団 体 名	職 名	氏 名	備 考
佐世保市	佐世保市議会	議 長	田中 稔	
西海市	西海市議会	議 長	宮本 一昭	
	西海市議会 総務文教常任委員会	委 員	浅田 直幸	
壱岐市	壱岐市議会	議 長	豊坂 敏文	
	壱岐市議会 国境離島活性化推進特別委員会	委員長	土谷 勇二	
五島市	五島市議会	議 長	木口 利光	副会長
	五島市議会 国境離島活性化推進特別委員会	副委員長	野茂 勇司臣	
新上五島町	新上五島町議会	議 長	大谷 恵次	
	新上五島町議会 国境離島活性化推進特別委員会	委員長	中山 正和	
小値賀町	小値賀町議会	議 長	横山 弘藏	
対馬市	対馬市議会	議 長	初村久藏	
	対馬市議会 国境離島活性化推進特別委員会	委員長	作元 義文	会 長
	対馬市議会 国境離島活性化推進特別委員会	副委員長	波田 政和	